

平成28年度市民まちづくりフォーラムにおける参加者のご意見・ご提案に関する本市の考え方について

テーマ①: 防災意識の啓発・震災の後世への伝達の大切さ

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	震災復興・震災後の正しい情報をきちんと知りたい。	本市の復旧・復興の取り組みについては、市政だよりやホームページ、「せんだい3.11メモリアル交流館」での展示などを通じご紹介しています。現在、震災復興記録誌を編纂中であり、完成次第、公表するとともに、引き続き、復興の取り組みに関する情報の発信に努めてまいります。
2	「被災者が一人ではない状況」をどう作るか。	被災者が一人ではない状況を作るためには、人と人とがつながり支え合う地域コミュニティの中心となる町内会に加入し、日頃からの地域活動への参加が大切と考えます。また、市政だよりやホームページなど既存の情報媒体に加え、生活支援情報をまとめた情報紙の郵送や対面による相談体制など、被災者一人ひとりに必要な情報が漏れなく届く仕組みづくりが大事と考えます。今回の震災では復興定期便や生活再建支援員による戸別訪問等を実施しております。
3	建物の耐震強化や要援護者の方へのサポートをどうするか？	市民の家屋や民間の建物の耐震化は震災時の被害低減のために大切なことと考えており、現在は耐震性が低い木造住宅や民間特定建築物を最優先に、耐震診断・改修工事への補助や戸別訪問等による啓発を進めております。また、要援護者の方々へのサポートについては、ご自身・ご家族等による自助を促すほか、関係団体と連携しながら地域の共助による支援体制づくりの取り組みを推進してまいります。本市では「災害時要援護者情報登録制度」を導入しており、今後も必要な方への登録勧奨を行うとともに、地域での取り組みが円滑に進むよう、相談対応や先行事例の紹介などを行ってまいります。
4	「せんだい3.11メモリアル交流館」、津波避難タワー等の整備、地域防災リーダーや語り部の育成、震災復興の記録誌の作成等が紹介されましたが、知らない人も多く、職場体験や防災教育へ活用するなど広く周知すべき。	本市の防災・減災の取り組みについては、市政だよりやホームページをはじめとする各種メディアに加え、様々なイベント等を通じて、引き続き、幅広く周知を図ってまいります。
5	仙台市ではいろいろと情報発信しているが、必要な人に届いていない。	情報を伝えるべき方々を念頭に置きながら、フェイスブックなど様々な発信手段を用いることにより、効果的な情報発信に努めてまいります。
6	子どもが自ら楽しく学べるようなプログラムの製作や、震災遺構などを活用したスタンプラリーなど各拠点を回るような仕組みを作り、震災に興味関心がない方や県外から来た人にも伝わるような状況を作っていくことが必要だ。	震災の記憶や経験を引き継いでいくことは本市の使命であると考えており、子ども達や関心の低い方にもしっかりと伝えていけるよう、効果的な手法について検討してまいります。
7	道の駅や運転免許センター、音楽ホールなど他の機能と組み合わせることで、情報発信を強化していく必要がある。	関係機関等と連携し、様々な可能性を検討しながら、情報発信の強化を図ってまいります。

平成28年度市民まちづくりフォーラムにおける参加者のご意見・ご提案に関する本市の考え方について

テーマ②:東西線×南北線 相乗効果促進

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	南北線の駅の印象として、東西線の駅に比べると「暗い」「寒い」。そこで、女性の地下鉄利用を促す取り組みとしてトイレをきれいにする、パウダールームをつくるなどの改装や、空きスペースを活用した期間限定ショップ、八乙女駅のような駅の中の居酒屋など、人が駅に集う仕掛けや「稼ぐ駅」を作ってはどうか。	南北線におきましては、ご提案のありましたように、トイレの快適さを向上させるため、平成29年度から平成32年度にかけて、全駅のトイレ(ひろびろトイレを含む)の改修工事を進めてまいります。 また、地下鉄車両基地をコンサートや地元主催のお祭りの会場として提供した実績があるほか、駅構内にコンビニや自販機、ATM等の設置を許可して設置料を得るなど、「人が駅に集う仕掛け」や「稼ぐ駅」に向けた取り組みをこれまでも続けてまいりましたが、今後も様々な機会を捉えて、地下鉄施設を活用した取り組みを進めてまいりたいと考えております。
2	地下鉄沿線には魅力ある施設が多いが、1日乗車券などの割引対象は全て仙台市の施設であるので、民間の魅力ある施設も対象にできないのか。	現在も「るーぶる仙台」専用の一日乗車券、及び「るーぶる仙台」と地下鉄全線で利用できる「るーぶる仙台・地下鉄共通一日乗車券」では、仙台市の施設のほか、民間施設も乗車券提示による割引対象となっていますが、今後もそうした施設割引等による乗車券の魅力づくりに取り組んでまいります。
3	東西線沿線でオススメしている観光スポットの中には、るーぶるのコースと重なっているスポットもあることから、東西線でしか行けない魅力あるスポットの発掘・発信も大切ではないか。	東西線沿線の魅力あるスポットの発掘・発信に向けて、東西線の駅ごとの地域の魅力や特徴を市民が発掘しマップとしてまとめた「若林WALKER」を発行しており、また、「WEプロジェクト」事業として、ウェブサイトやデジタルサイネージを用いた東西線沿線のスポットを紹介しております。 なお、東西線沿線だけでなく、地下鉄を利用して行ける仙台市内にある魅力的な施設を紹介するパンフレット「すらーり仙台」を発行するなど、市民や来訪者が地下鉄を利用して都市の楽しさを享受できるような取り組みを行っております。 今後ご提案のありましたように、市民の皆様とともに更なる魅力の発掘に努めますとともに、引き続き効果的な地下鉄沿線情報の発信に取り組んでまいります。
4	地下鉄東西線の開通に合わせてバス路線が大きく変更されましたが、バス利用者等のニーズについて、もう一度リサーチしても良いのではないか。	地下鉄東西線開業に伴うバス路線に関連した様々なご要望、ご意見等につきましては、バス事業者へお伝えしており、可能な範囲でダイヤ等に反映されるよう働きかけております。 市営バスにつきましては、バスそれぞれに搭載している機器で便毎にお客様のご利用状況を停留所毎に記録しており、この内容も踏まえながら、各路線における乗車実績を丁寧に分析し、お客様のニーズの把握に努めてまいります。
5	地下鉄に乗り継ぐ路線バスの料金を下げる、乗り継ぎにかかる時間を短縮するといった取り組みが、利用者を増やすためには必要ではないか。	地下鉄と路線バスの乗り継ぎにつきましては、ICカード乗車券icscalによる乗継ポイント制度導入などにより運賃負担の軽減を図っております。 また、乗り継ぎ時間の短縮を図るため、地下鉄からバスに乗り継ぎしやすい時刻設定にバス事業者と共に今後も努めてまいります。
6	1日乗車券や沿線の観光スポットなどの情報の認知度が低いことについては、ネット上の情報へのアクセスのしやすさや、情報誌の配置場所を改善することで、多くの人の目に留まりやすくなるはず。	インターネット上の観光情報につきましては、アクセス性の向上を目的としてサイトのスマホ対応化を今年度実施いたしました。また、交通局ではホームページのトップに東西線沿線のイベントを紹介するページのリンクを貼るなどの工夫を行っております。 地下鉄沿線の観光スポット等につきましては、民間が発行するフリーペーパー「ちかてつさんぽ」を活用して常に新鮮な情報を提供しております。配置場所は、地下鉄利用者が必ず通行する地下鉄駅の改札口付近や、JR仙台駅の観光案内所などに常設しておりますが、配置方法の工夫等、更なる情報提供の改善に取り組んでまいります。

平成28年度市民まちづくりフォーラムにおける参加者のご意見・ご提案に関する本市の考え方について

7	<p>地下鉄に乗る習慣や乗り換え習慣を育てていくことが、利用者増の取り組みにおける重要な視点である。</p>	<p>公共交通の利用方法や利便性等を知っていただき、公共交通利用者の増加を目指すための様々な取り組みについて、転入者、小学生、大学、企業を対象に以下の取り組みを実施し、地下鉄の利用促進に努めております。</p> <p>【転入者】 仙台市内に転入してきた市民に対し、仙台市内のバス路線図や公共交通の案内などの情報が掲載されている資料を配布し、移動手段が固まっていない転入者に対し、公共交通利用を促進しております。</p> <p>【小学生】 普段、公共交通を利用する機会が少なくなった小学生を対象に、公共交通を利用する機会や、公共交通について考える機会を提供し、将来の公共交通利用者の育成を図っております。</p> <p>【大学】 通学に便利なバス路線が描かれた大学周辺のバス路線図などの情報マップを作成し、マップを大学新入生を中心に各大学から配布し、大学生の公共交通利用を促進しております。</p> <p>【企業】 地下鉄駅周辺の事業所を対象として、通勤や業務での移動における自動車利用について考え方を見直してもらい、自動車から公共交通への転換を促進しております。</p>
8	<p>仙台市での取り組みのみで完結するのではなく、民間の企業・団体と連携しながら地下鉄の利用促進に向けて取り組む必要がある。もっと市政の中で市民の声を集めて分析することが大切である。</p>	<p>本市では、平成26年度より、企業に対し通勤・業務における移動実態調査を行い、車から公共交通への転換のための意見交換や利用促進PRを実施してきたところです。</p> <p>平成27年度には市民協働事業提案制度を利用し、交通手段を利用者目線でわかりやすく整理した冊子をNPO法人と連携して作成し、仙台駅前での配布や仙台駅西口のバスプール案内所や目的地施設等に配架いたしました。</p> <p>今後も継続して企業や団体等と連携し、また、市民の皆様のご意見を参考にしながら、取り組みを進めてまいりたいと考えております。</p>
9	<p>各地域の文化や風俗、習慣、伝統を活かしたまちづくりを地下鉄を使ってどのように進めていくか考えてはどうか。</p>	<p>市民協働により、地域資源の発掘・活用や伝統行事等の継承、地域における各種イベントなど、地域の魅力・活力を高める活動に取り組んでいるところですが、地域ごとの特色ある資源を地下鉄東西線、南北線を使ってつなげ、新たな魅力が創出されるよう、今後も引き続き、地域間の連携強化を図ってまいります。</p>

平成28年度市民まちづくりフォーラムにおける参加者のご意見・ご提案に関する本市の考え方について

テーマ③:ごみ減量に向けた工夫・取り組み

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	「ごみ減量キャラバン2016」などごみ減量・分別推進の取り組みについて、周知・広報の強化が必要。	これまでの取り組みの広報強化を図るほか、ごみに関心のない方々にもアピールできるような新たな切り口での情報発信を行うなど、様々な方法で周知・広報の強化を行ってまいります。
2	ごみ集積所での適正排出等に関する啓発について、居住者以外が持ち込むごみに対しては、より広域での啓発が必要ではないか。	本市のごみ出しルールは、決められた集積所以外にはごみを出せないこととしており、その周知と遵守を呼び掛けているところです。引き続き、周知広報に努めるとともに、集積所を管理する町内会との連携に加えて、地域全体でごみ出しルールの遵守を呼び掛ける取り組みも検討してまいります。
3	学校での教育を通じて児童からその親への働きかけを強化しては。	小学校では、これまでも本市清掃工場など環境施設の見学や、本市の担当職員が小学校に出向いて、ごみ等に関する説明を行う出前授業などを実施してきましたが、今後は、ご提案をいただきましたような趣旨から、児童からその家族や友人などへの波及効果につながるようなごみ分別啓発も検討してまいります。
4	ごみ減量のためには個人だけではなく企業への働き掛けも必要ではないか。	本市では、店舗や事業所においてごみ減量・リサイクル推進に取り組む事業者を「環境配慮型店舗・事業所」として認定する制度があります。こうした制度等のさらなる周知を図るとともに、事業者がごみの減量に取り組みやすい環境づくりを進めてまいります。

テーマ④:東北の地域資源を活用した交流人口拡大の取り組み

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	東日本大震災や原発事故に伴う風評被害などの影響もあり、東北地方を訪れる外国人が必ずしも多くないという現状に対しては、復興を着実に進め、震災後大きな国際会議なども開催してきた仙台市が率先して、東北全体を発信していくことが大切だ。	東北の交流人口拡大に向けて、東北の各都市や関係機関と連携の上、東北の復興状況や魅力を発信してまいります。
2	仙台から、魅力あふれる東北の「人」「場所」「こと(イベント)」につなぐことで仙台・東北を訪れる人が増えるのではないか。	東北のゲートウェイ(玄関口)として、仙台から東北周遊を促す仕組みの構築に向けて、仙台と東北の観光案内所のネットワーク化や仙台における東北の魅力発信機能の強化などについて検討してまいります。
3	東北の自然や祭りなど魅力的な観光資源の活用に加え、「東北人の気質」や「東北の方言」についても大きな魅力になり得るのではないか。	東北の方々との交流や東北ならではの生活文化の体験は、外国人観光客の方々にとっても大きな魅力になると考えており、東北の多彩な魅力を積極的に情報発信してまいりたいと考えております。
4	東北地方は、駅や空港から観光地までを結ぶ二次交通が不便であったり、外国人が宿泊できる施設などが不足していたり、受入れ環境がまだまだ不十分である。	東北の外国人受入環境につきましては、二次交通の整備の遅れや多言語対応が可能な宿泊施設の不足などが有識者からも指摘されており、引き続き、関係機関と連携して、受入環境の整備について検討してまいります。
5	受入れ側の東北人の意識の変化も必要かもしれない。東北人らしい「おもてなし」が外国人にとって魅力になることもあるのではないか。	東北の方々との交流や東北ならではの生活文化の体験は、外国人観光客の方々にとっても大きな魅力になると考えております。関係機関や観光事業者等とも連携し、おもてなし環境の整備や東北の魅力発信に取り組んでまいります。
6	なぜ今後の仙台・東北にとって、観光産業やコンベンション事業の強化による交流人口増が必要なのかの広報・啓蒙が必要だ。	東北の人口が減少する中で、交流人口の拡大が東北の活性化に大きく貢献すると考えております。交流人口拡大に向けた取り組みについて、様々な機会を通じて、引き続き、市民の皆様にお知らせしてまいります。

平成28年度市民まちづくりフォーラムにおける参加者のご意見・ご提案に関する本市の考え方について

テーマ⑤: 多様な保育サービスの充実

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	<p>「認可外」の「外」という言葉のイメージが悪く、お母さんたちが保育所を選ぶときに認可外を外して考える傾向があります。認可外でもいい保育施設がたくさんあるのに活用されていない現状があります。まず「認可外保育施設」という名称の見直しを検討することや、皆さんに「認可外保育施設」の実情を知ってもらうことが保育サービスの充実に役立つのではないかと。</p>	<p>国において、保育を行うことを目的とする施設であって、市長等が認可している保育所や認可事業を運営する保育施設を除いたものを総称して認可外保育施設としておりますことから、名称の見直しは難しいものと考えております。認可外保育施設の意義や実情等につきましては、市ホームページにより情報提供に努めてまいります。</p>
2	<p>仙台市には託児ボランティアがいて保育士資格はもっていないが研修を受け、保育を安全に進めている方がたくさんいます。そういったボランティアをもっと活用してはどうかということ、それからシニアの方々にももっと活躍していただける環境づくりが大切だ。</p>	<p>本市では、シニア世代も含め、多様な方々が運営する託児ボランティア団体の登録を行い、ホームページでご紹介するなどにより、団体活動の支援を行っております。ボランティアの方々が活躍できる環境づくりは大切であり、上記事業もその一助となればと考えております。</p>
3	<p>保育士が不足しているというニュースを聞くが、仙台市には保育士の資格のある方で働いていない方がたくさんいます。資格を持っているのに働いていないのはもったいない、待遇や研修体制など働ける環境を整え、もっと活用してはどうか。</p>	<p>保育士資格等を持ちながら、保育所等の現場を離れている方を対象に、講話や施設の情報を提供するセミナーを開催しております。今後も、引き続き、セミナーを開催するとともに、復職に役立つ研修を実施するなど内容を充実し保育士の確保に努めてまいります。 待遇面では、国家公務員の給与引上げ等に応じた改善が行われているほか、保育士のお子さんの保育施設等への優先入所を実施するなど、働きやすい環境づくりにも努めてまいります。</p>
4	<p>男性を活用し、協力体制の中にいれてはどうか。</p>	<p>保育所の情報は、保育所だよりのほか、ホームページや仙台市メール配信サービス等を通じて紹介しておりますが、今後もより多くの市民のみなさまに情報をお届けできるよう努めてまいります。 市内保育所(園)で実施している子育て支援事業では、例えば「パパクッキング」といった、父親も参加しやすいような行事を開催しております。引き続き男性にも参加していただきやすい行事を実施してまいります。</p>
5	<p>待機児童についても「200何十カ所ある認可保育所で、1カ所で1人定員を増やせば約200人の待機児童が減るのではないかと」。</p>	<p>保育施設等では子ども一人あたりの保育面積や保育士の配置人数等、施設の設備・運営基準を満たした上で定員を上回る受入れを行っております。一方で、保育施設等への入所を希望する方の地域や年齢のミスマッチが課題となっておりますことから、今後も待機児童の解消に向け、各区役所に配置している保育サービス相談員等を通じて、需給のミスマッチ解消に向けた利用調整に努めるとともに、保育需要が見込まれる地域を中心に保育基盤の整備を推進してまいりたいと考えております。</p>

平成28年度市民まちづくりフォーラムにおける参加者のご意見・ご提案に関する本市の考え方について

テーマ⑥: 高齢者を地域で支え合う体制づくり

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	どんな高齢者の方がいるか、町内会でどんな活動をしているのかなどの情報を得る機会がない。	本市では地区社協や町内会、ボランティア団体など様々な地域団体が主体となり、支え合い活動に取り組んでおります。地区社協やボランティア団体の活動につきましては、市社会福祉協議会において情報発信を行っているほか、お住まいの地域の地域包括支援センターでもご紹介できます。
2	地域との接点も少なく、若い世代と関係性が薄い。	年齢を重ねても生き生きとその人らしい生活を送るためには、地域の中で役割を持って生活することや、若い世代の方々を含めた人とのかかわりを持ち続けることが重要です。本市では地区社協や町内会、ボランティア団体など様々な地域団体が主体となり、支え合い活動に取り組んでおります。地区社協やボランティア団体の活動につきましては、市社会福祉協議会において情報発信を行っているほか、お住まいの地域の地域包括支援センターでもご紹介できます。
3	困りごとが無償だと頼みづらいが、多少対価を支払うと頼みやすい。	ボランティア活動に対して一定の報酬を支払う有償ボランティアについて、理解が徐々に進んでいるところです。本市ではこうした有償も含んだ、地域での支え合い活動を行うボランティア活動を行おうとしている団体に対する助成等を行っております。こうした地域での支え合い活動の充実に向け、今後とも必要な支援に取り組んでまいります。
4	子育て世代と高齢化世代をつなげて何かやれないか。	地域における支え合いの体制づくりのためには、様々な主体の連携が重要であると考えております。これまでも老人福祉センターにおいて世代間交流を行っているところですが、引き続き世代を超えた関係づくりの促進に取り組んでまいります。
5	町内会の役割をもっと活用できるのではないか。	本市では地区社協や町内会、ボランティア団体など様々な地域団体が主体となり、支え合い活動を行っております。こうした活動がさらに広がるよう、取り組んでまいります。
6	「地域を良くしたい！」と取り組んでくれている方に対して、社会的な役割を認め合うということが非常に大事だ。	本市では地区社協や町内会、ボランティア団体など様々な地域団体が主体となり、支え合い活動を行っております。こうした取り組みに対しては、本市において役員勤続表彰を行っているほか、市社会福祉協議会において福祉活動に対する感謝状贈呈などを行っているところです。また、地域団体等の活動の周知等も重要であり、効果的な情報発信等について検討してまいります。
7	地域社会に貢献したいと思っている人は地域の財産です。ネットワークを作って、自分たちのやっていることをつなげていくことが大事である。	地域における支え合い体制づくりのためには、様々な主体の連携が重要であると考えております。そのため、市社会福祉協議会において、ボランティア活動団体の交流会を開催しております。
8	自治体や民間のスーパー等からの買物バスの運行や、市から大手スーパーへ持ちかけてもらい、買物の宅配サービスがあるとよい。	介護保険サービスとしては、ホームヘルパーによる買い物支援がございます。その他、民間事業者や、ボランティア団体においても、そうしたサービスを提供している方々もおられます。今後とも、介護サービスの適切な運用や、ボランティア団体の育成支援に取り組んでまいります。
9	町内会の利用、回覧板の活用、施設見学等の催しで呼び込む。	ご意見いただきましたように、支え合いの体制づくりを進めるには、地域団体等の活動の周知等も重要であり、効果的な情報発信等について検討してまいります。
10	横のつながり、町内会を子供会・市・大学など色々な単位が色々な組み合わせで活動できるようになれば、何かが変わる・生まれるとともに、お互いに関心・助け合いにつながるのではないのでしょうか。	本市では地区社協や町内会、ボランティア団体など様々な地域団体が主体となり、支え合い活動を行っております。こうした活動がさらに広がるよう、取り組んでまいります。(5と同じ)